

議長に今氏、 副議長に山谷氏

6月8日に開会した「平成21年第2回つがる市議会定例会」で、高橋作藏議長と三戸昭男副議長の辞任に伴い、新議長に今彰造氏（61）、副議長に山谷仁氏（54）が選任されました。任期はいずれも2011年2月10日まで。



今 彰 造 議 長

〈略歴〉五農高卒。旧木造町議を4期務め、副議長を経験。市町村合併で市議となり、2007年の在任特例任期満了に伴う市議選で当選。



山 谷 仁 副 議 長

〈略歴〉八戸工業大卒。旧森田村議を4期務め、市町村合併で市議となり、2007年の市議選で当選し、議会運営委員長などを歴任。

不屈の精神で 市民の生命、財産を守る消防団 消防団定期観閲式

6月21日、第5回つがる市消防団定期観閲式がイオンモールつがる柏の駐車場で行われ、消防団員が日頃から行っている防火・防災訓練の成果を観閲者である福島市長に披露し、服装、分列行進、機械器具点検等の審査が行われました。



息のあった分列行進をする消防団



観閲者の福島市長

引き続き開催された式典では、殉職消防団員へ黙祷を捧げ、表彰伝達並びに授与式が行われ、237人の団員と9団体が各表彰を受けました。消防庁長官表彰には、つがる市消防団長の箱田鐵雄さんと森田団長の山谷孝治さんが表彰され、青山副知事から伝達されました。今回の観閲式の結果は、柏大隊が日頃の訓練の成果と安定した力で総合優勝を果たし、見事10連覇の快挙を成し遂げました。

現在、つがる市消防団は57分団、消防ポンプ車等84台が配備され、14000人の団員が消火栓や消防ポンプの管理、消火訓練等を行いながら、まさかの災害に備えています。観閲式では団員の視閲点検、消防車両の機械器具点検、分列行進等が行われ、44分団と航空自衛隊車力分屯基地第21高射隊が出場しての玉落競技も開催されました。また、いなほ保育園の園児が踊りて観閲式を盛り上げ、柏第一保育所、銀杏ヶ丘保育園の園児らによる幼年消防クラブが、機械器具点検と放水訓練を披露し、将来の勇敢な消防士ぶりをアピールしていました。

【観閲式の成績】

総合優勝 柏大隊(349点)
第2位 森田大隊(329点)
第3位 木造第3大隊(315点)
特別賞 航空自衛隊車力分屯基地第21高射隊

【玉落競技の成績】第1位のみ

●50馬力以下
木造第11分団第1部(出崎) 22秒51
●51馬力～85馬力まで
木造第19分団第1部(越水) 14秒21
●86馬力以上
稲垣第2分団(沼崎) 18秒07



水を被りながらの白熱した玉落競技



機敏な行動で機械器具点検をする団員

お手柄、初期消火で延焼防ぐ

4月25日に牛潟町で発生した火災で、消火活動に貢献した同町の鳴海みやさんと工藤はつさんに市消防本部が5月27日、感謝状を贈りました。

同本部によると火災のあった住宅の住人が、鳴海さん宅へ助けを求めに行った際に、新聞配達中の工藤さんと協力して、煙の充満する住宅に入り、台所からホースで放水して被害を最小限に食い止めました。

贈呈式では、成田消防長が感謝状と記念品を手渡し、「勇気ある行動に心から感謝します」と2人を讃えました。

感謝状を受け取った鳴海さんは「住人が高齢者だったので、自分たちが火を消さなければと夢中でした」と話していました。



成田消防長から感謝状を贈られた鳴海さん(左)と工藤さん

日頃の訓練成果を発揮した水防演習

水防月間の5月に東北六県持ち回りで開催される水防演習が5月30日、五所川原市の岩木川河川敷北斗グラウンドで行われ、約3,600人が水害や地震を想定した訓練に臨みました。

訓練は大雨で岩木川が増水し、堤防が決壊する恐れがあるとの想定で行われ、つがる市消防団約80人が積土のう工の作業を実施。団員たちは手際よく、土のう袋に土を入れて積み重ね、鉄筋棒を打ち付けて出水を食い止める工法を実演しました。

また、会場では自衛隊による応急架橋の設置、ライフライン復旧作業などの訓練も実演され、参加者は防災意識を新たにしていました。



手際よく積土のう工を実演するつがる市消防団員



華麗に太刀振り舞を披露する児童



荒馬を演じる児童



今年製作された迫力ある2体の虫

「虫おくり」を継承する牛潟小児童

牛潟町で五穀豊穡と交通安全を祈願する虫おくりが5月31日、牛潟小学校児童と保護者ら約150人が参加して開催されました。

同町の虫おくりは、後継者不足等で途絶えていましたが、21年ほど前に復活し、現在では地域、学校、PTAが連携しながら開催されています。

この日はあいにくの雨でしたが、2体の竜頭の虫を先頭に殿様や姫にふんした児童、ピンクや赤の法被と襦袢(じゅばん)を身に付けた児童や保護者が「サンサンサンソーレ」と元気にかけ声をかけ、太刀振り舞を披露しながら町内を練り歩き、沿道からは歓声が沸いていました。

多年の活動、功績が讃えられる

つがる市人権擁護委員として、多年にわたり国民の人権擁護と人権思想の普及高揚に貢献した功績が讃えられ、神静枝さん（森田町床舞）が仙台法務局長から、小笠原金美さん（木造菊川）と葛西弘和さん（木造林）が青森地方法務局長から感謝状が贈られました。また、神さんには、法務大臣からも感謝状が贈られ、7月6日に市役所において青森地方法務局五所川原支局長から、伝達されました。



神 静枝 さん



小笠原金美 さん



葛西弘和 さん



ボランティアガイドの説明に耳を傾け、ニッコウキスゲの花を堪能するツアー客たち

定期観光バスツアーで市内名所めぐり

市観光協会（伊藤良二会長）が主催する定期観光バスツアーが6月2日から始まりました。ツアーに先立ち、市役所前では出発式が行われ、ツアー客を含む関係者ら約30人が参加。出発式終了後、ツアー客はバスに乗り込み、1カ所目の観光スポットであるニッコウキスゲが咲くベンセ湿原に出発しました。

ボランティアガイドの田中豊忠さんは「今年は例年に比べて花の数が多いですね」と話しており、参加者は湿原一面に広がる鮮やかな黄色のニッコウキスゲを満喫していました。

また、自然を堪能した一行は、縄文遺跡の出土品が展示されている縄文館や森田歴史民俗資料館などを巡り、縄文文化に触れながら約4時間半のバスツアーを楽しみました。

リンゴ栽培を体験する柏中2年

6月4日、柏中学校（永澤正己校長）2年生54人が柏地区の荒谷隆志さんのリンゴ園地で、リンゴの摘果作業を体験しました。

同校は文科省のキャリア教育事業の一環として、生徒たちに勤労観や職業観を育んでもらおうと昨年から引き続き実施しています。

作業前に園主の荒谷さんが「質の良いリンゴを生産するためには、株ごとに大きな中心果1個を残して、周りの小さな実をもぎ取ってください」と説明。生徒たちは慣れない手つきで「星の金貨」という品種のわい化樹の摘果作業を体験していました。

同校では今後、生徒たちに秋の着色管理や収穫などを体験させ、11月上旬に出発する首都圏での修学旅行先で、自分たちの育てたリンゴを販売する予定になっているそうです。



質の良いリンゴを生産するため丁寧に摘果作業を行う生徒たち